

三河の昆虫

MIKAWA NO KONCHU

The Mikawa Insects Association



2013年3月

〒444-3511

岡崎市舞木町狐山6-4

大平仁夫方

三河昆虫研究会発行

(郵便00830-9-14465)

幡豆のカミキリムシ (IV)¹⁾

早 河 忍

筆者は先に本誌(42)・(43)・(50)に、愛知県幡豆郡幡豆町のカミキリムシについて報告したが、その後も採集を行い若干の追加種を記録することが出来たので報告する。

幡豆町は2011年4月に西尾市と合併したため、本報告の採集地名は合併後の新表記とした。なお、旧幡豆町内の合併後の地名表記は「大字」及び「字」の3文字を削除して大字名を町名とする変更が行われ「幡豆町」という地名は消滅した。

目録の種の配列、和名及び学名は原則として日本鞘翅目学会編(1984)「日本産カミキリ大図鑑」に従った。採集者はすべて早河で、標本もすべて早河が保管している。

目 録

1. キバネニセハムシハナカミキリ

Lemula decipiens Bates

西尾市西幡豆町 3 exs., 25-IV-2012.

(カエデの花上)

2. オオヨツスジハナカミキリ

Leptura regalis (Bates)

西尾市寺部町 1 ex., 23-VII-2012 ; 1 ex., 25-VII-2012.

(スギの伐採木上)

3. フタオビミドリトラカミキリ

Chlorophorus muscosus (Bates)

西尾市寺部町 3 exs., 19-VII-2012 ; 3 exs., 23-VII-2012.

(広葉樹の立枯・伐採枝上)

4. ワモンサビカミキリ

Pterolophia annulata (Chevrolat)

西尾市三ヶ根山 1 ex., 20-V-2001.

西尾市西幡豆町 1 ex., 18-VI-2012.

(伐採枝上)

5. トゲバカミキリ

Rondibilis saperdina (Bates)

西尾市三ヶ根山 1 ex., 8-VI-2012 ; 1 ex., 4-VII-2012.

(広葉樹の枯枝上)

6. キクスイカミキリ

Phytoecia rufiventris Gautier

西尾市寺部町 2 exs., 6-V-2012 ; 3 exs., 7-V-2012.

(ヨモギの茎・葉上)

本報ではカミキリムシ科6種を記録した。これで西尾市幡豆地区のカミキリムシは65種となった。この他にも分布の予想される種があると思われるので、今後も採集を継続したい。

参考文献

- 穂積俊文(1993)「愛知県の昆虫・甲虫目」の追加記録(3) - 1992年度のまとめ - . 佳香蝶, 45(175): 43 - 47.
湯沢宣久・蟹江 昇・河路掛吾・竹内克典(1990) 愛知県のカミキリムシ科. 愛知県の昆虫(上): 389 - 433.

1) (I) 三河の昆虫, (42): 389-392.

(II) 三河の昆虫, (43): 412-413.

(III) 三河の昆虫, (50): 559.

岡崎市烏川町で得た甲虫類について

山崎 隆弘

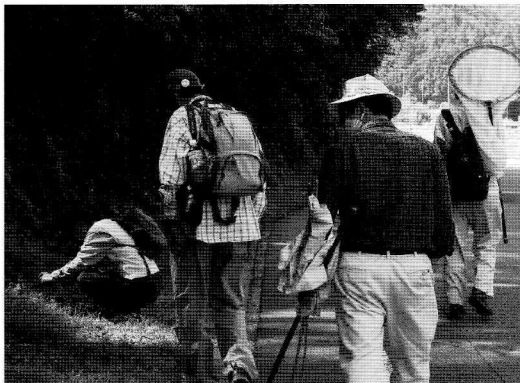


図-1. 岡崎市烏川町での調査風景

岡崎市東部の額田地区の山間部にある烏川町は、男川の支流「烏川」の上流部で、ホタルの名所としてよく知られた場所である。筆者は2012年に三河昆虫研究会の例会を機に、その後において甲虫類の調査をしてきた。調査方法は昼間にビーティングとスィーピングでの採集を4日間行い、夜間のライトトラップを1回実施した。以下にその概要について報告したい。採集品はすべて筆者のもので、標本も保管している。現地において、ご指導やご協力を頂いた大平仁夫博士、浅岡孝知氏、伊藤昭博氏、判家卓司氏の方々にここに厚くお礼申し上げる。

調査の概要

春期から夏期にかけて、烏川町の山頂部を除きほぼ全域において調査を行った。昼間調査はビーティングとスィーピングによるもので、4月29日、5月10日、7月9日、8月2日の4回実施した。4月29日は三河昆虫研究会の例会日であったが、その他は単独による調査である。烏川町地内で得られた採集品の中から主なものを挙げてみると、ミカワオサムシ、ルリヒラタゴミムシ、アオハナムグリ、ヒラタハナムグリ、アカハラクロコメツキ、キバネホソコメツキ、カクムネベニボタル、ホソベニボタル、ジョウカイボン類、ヨツモンヒメハナカミキリ、トゲヒゲトラカミキリ、チビタ



図-2. ライトトラップの設置場所の様子

マムシ類、ナガボソタマムシ類、ツマグロコメツキモドキ、ヒメアカホシテントウ、スギカミキリ、ヒトオビアラゲカミキリ、チャイロチョッキリ、ゴマダラオトシブミ、カシルリオトシブミ、コフキゾウムシ、クチブトゾウムシ、ハムシ類ではトホシクビボソハムシ、バラルリツツハムシ、シロオビアラゲサルハムシ、カサハラハムシ、アオバナサルハムシ、フジハムシ、ハンノキハムシ、ムナグロツヤハムシ、イタドリハムシ、アトボシハムシ、クワハムシ、クロウリハムシ、キムネアオハムシ、チャバネツヤハムシ、ツブノミハムシ、アラハダトビハムシ、ヒゲナガルリマルノミハムシ、ルリマルノミハムシ、イチモンジカメノコハムシなどである。春季は種類個体数ともに多くが出現するので、当地域における調査の最適期である。

夜間の灯火採集は7月25日に、3時間程度実施した。設置場所は「ななまがりトンネル」の南南西約500m付近である(図-2)。当日飛来した甲虫はアトボシアオゴミムシ、ゴモクムシの仲間、水生甲虫のガムシ類、ドロムシ類などである。クワガタムシ類は3種であった。セマダラコガネ、アオドウガネ、ヒメコガネはやや多く飛来してきた。食糞コガネについてはカドマルエンマコガネの1種のみであった。コメツキムシ類ではヒゲコメツキ、オオツヤハダコメツキ、クロツヤハダコ

メツキ、クシコメツキなど普通種が飛来してきた。ゴミムシダマシ類ではヒゲブトゴミムシダマシやヨツコブゴミムシダマシなど数種が飛来してきたが特別なものはなかった。テントウムシ類ではナミテントウ、ムーアシロホシテントウの2種のみであった。カミキリムシ科のクロカミキリについては飛来が多かった。その他雑甲虫が各種あった。

興味深い種について

採集した甲虫類は、この地方の各地に見られる普通種が占めていたが、なかには興味深い種も若干あった。以下に気付いた点について簡単に記述しておきたい。

1. チャバネクビナゴミムシ

Odacantha puziloi Solsky

1ex., VII -2012. 北海道・本州・四国に分布するが、特異な形状の種である。灯火に飛来した。

2. ツマアカナガエハネカクシ

Ochtheophilum kurosai Itô [図-3 A]

2exs.25- VII -2012. 灯火に飛来した。平地にいるが少ない種である。

3. ミヤマクワガタ

Lucanus maculifemoratus Motschulsky

1♂,25- VII -2012. 灯火に飛来した。三河地方の山地に多い種であるが、平地では少なくなる。得られた個体の体長は46mmである。

4. ノコギリクワガタ

Prosopocoilus inclinatus inclinatus Motschulsky

1♂,25- VII -2012. 日本全土に産し、分布域の広い普通種であるが1頭のみが飛来した。この個体の体長は60mmである。

5. コクワガタ

Dorcus rectus rectus (Motschulsky)

1♂,25- VII -2012. 平地の普通種であるが、クヌギやコナラ林の減少とともに、従来から比べれば個体数が減ってきたように思われる。当日は1頭のみが飛来した。この個体の体長は33mmである。

6. カドマルエンマコガネ

Onthophagus lenzii Harold

1ex.,25- VII -2012. 灯火に飛来した。食糞コガネ類では各地にごく普通の種であるが、牧場や家畜

の減少に伴い個体数は減少傾向にある。

7. オオセンチコガネ

Phelotrupes auratus (Motschulsky)

1ex.,29- IV -2012. 本宮山系ではシカが増加しており、それに伴って本種の個体数も増加傾向にある。よく晴れた日には飛翔する個体もよく目撃した。本会の例会の日に同行の判家氏が、偶然にシカ糞に飛来していたものを見つけた。これはその時採集させて頂いたものである。

8. マエグロチビオオキノコ

Tritoma centralis (Lewis) [図-3 B]

1ex.,31- V -2012. 半枯れの古木に生えていたカワラタケ類から得たものであるが、全国的にも少ない種であると思われる。

9. ヒゲブトコキノコムシ

Mycetophagus antennatus (Reitter)

3exs.25- VII -2012. カワラタケ類にいる種であり、それほど珍しい種ではないが、灯火に飛来してきた採集例として挙げておく。

10. コルリクビボンサムシ

Lema michioi K.Suzuki [図-3 C]

1ex.,10- V -2012. 本種は最近(鈴木2005)記載された種で、岡崎市の旧額田町が原記載のタイプのひとつとなっている。愛知県での記録はきわめて少ないが、筆者は平地の数ヶ所で採集している。これは食餌植物が各地に多いイボクサやツユクサであることから、この地域から今後見出される可能性は高いと思われる。

11. ルリクビボンサムシ *Lema cirsiicola* Chûjô

6exs.29- IV -2012 ; 2exs.10- V -2012. 愛知県の山地に広く分布するが低地では少ない。尾張や知多半島からはまだ記録がされていないが、分布の可能性は十分にあり得る。当地区のアザミ類を調べたところ個体数は少なくなかった。

12. セスジツツハムシ

Cryptocephalus parvulus Müller

1ex.,31- V -2012. 寒地系の種であるが、愛知県のほぼ全域に分布している。しかし、いずれの場所でも個体数が少ない。

13. マルキバネサルハムシ

Pagria ussuriensis Moseyko et Medvedev

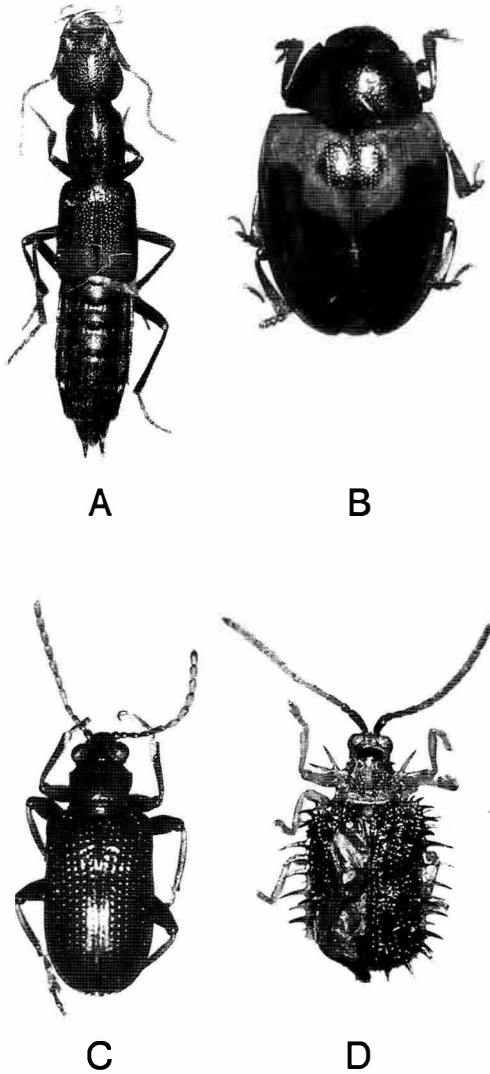


図-3.

- A. ツマアカナガエハネカクシ (体長 9.5 mm)
 B. マエグロチビオオキノコ (体長 4.5 mm);
 C. コルリクビボソハムシ (体長 3.5 mm);
 D. ヒゴトゲハムシ (体長 4.5 mm)

lex.,31-V-2012. 各地に多いヒメキバネサルハムシであるが、最近見直されてムネアカキバネサルハムシ、ツヤキバネサルハムシ、チビキバネサルハムシ、マルキバネサルハムシの4種に分けられた。本種はクズに多い普通の種である。

14. ヒゴトゲハムシ

Dactylispa higoniae (Lewis) [図-3 D]

lex.,31-V-2012. 豊田市の山地には広く分布しており、新城市や豊橋市でも採集しているが、鳥川や豊橋市では希である。食餌植物はムラサキシ

キブで、秋季でも得られることがよくある。最近になって豊田市に隣接した新城市作手地区では各地で時々見出されるようになり、一度に数頭が得られることも珍しくなくなったが、産地は限定的である。鳥川では寄主植物のムラサキシキブを多数調べたが、今のところ1頭が得られているに過ぎない。分布上から興味深い種であり、今後の動向には注視したいものである。

あとがき

最近は岡崎市鳥川町の「とっかわホタルの里」はホタル自然観察の名所として注目されているが、筆者が甲虫類の調査を試みたのは今回が初めてであった。まだ数回程度訪れただけなので、当地域に生息する種の一部が解ったに過ぎないであろう。しかし、調査を重ねて行くうちに興味深い点が少なからず見えてきた。当地域は平野部から山間部への中間地点に位置した場所であるため、地理的にも興味深い場所であるように思えた。今回は単年度の乏しい試料ではあったが、ここに調査結果の概要を報告させて頂いた。これが、岡崎市の里山が持つ魅力のひとつになれば幸いである。

文 献

1. 大平仁夫 (1985) 岡崎市の甲虫類. 新編岡崎市史 (14) 自然: 1024-1096.
2. 山崎隆弘 (2012) 愛知県岡崎市のハムシ類. 三河生物. (4): 27-40.
3. Kunio Suzuki (2005) Discription of a New Species of the Genus *Lema*(Coleoptera Criocerinae)From Honsyu,Japan. *Elytra*.Tokyo,33(1):86-94.

三河湾・梶島の昆虫

浅岡孝知



図1. 登頂口の目印の碑

梶島には、三河昆虫同好会副会長の山崎隆弘氏のお世話で、平成24年5月23日(水)に出かけてきた。この時期の2月下旬から6月上旬には「潮干狩り」の関係で渡島することができるが、渡島料金の他に潮干狩り代が加わり、往復2300円である。5月の採集は初めてであり、その意味で何が採れるのか興味があった。20年前と異なり山頂部はススキなどが繁茂して歩くこともままならなく、道を誤ること度々であった。かつて記憶のあるオオシマザクラ? 並木は現存していた。十何頭いたシカは届く範囲以内の植物を食べ尽くしたのか? 他に泳ぎ去ったようである。今回労を取ってくださった山崎隆弘氏に感謝申し上げる。以下は得られた種の内、報告をしたほうが良いと思われる種の一部である。ハムシ科とゾウムシ科・テントウムシ科は除いている。採集データは全て2012年5月23日であり、標本は筆者が保管している。

・カメムシ目 HEMIPTERA

キジラミ科 Psyllidae

- 1) ベニキジラミ *Psylla coccinea* Kuwayama lex.
梶島では初めての記録であると思われる。

サシガメ科 Reduviidae

- 1) モモブトトビイロサシガメ *Oncocephalus femoratus* Reuter 2exs. 梶島では初めての記録であると思われる。

ナガカメムシ科 Lygaeidae

- 1) ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus* Distant 2exs.
梶島では初めての記録であると思われる。
- 2) サビヒョウタンナガカメムシ *Pamerarma rustica* (Scott) 1ex. 梶島では初めての記録であると思われる。
- 3) クロスジヒゲナガカメムシ *Pachygrontha simiris* Uhler 3exs. 三河湾の島では初めての記録であると思われる。

オオホシカメムシ科 Largidae

- 1) ヒメホシカメムシ *Physopelta parviceps* Blore 1ex. 梶島では初めての記録であると思われる。

カメムシ科 Pentatomidea

- 1) フタテンカメムシ *Laprius gastricus* (Thunberg) lex. 本種は豊橋市、新城市など暖地に認められる種であり、イネ科植物などで見いだされ灯火にも飛来するが個体数は少ない。三河湾の島では初めての記録であると思われる。
- 2) ヒメクロカメムシ *Scotinophara scotti* Horvath 1ex. 本種は県内暖地に広く分布をする種であり、やはりイネ科植物などに依存しているが、普通種のイネクロカメムシ *Scotinophara lurida* に比べて個体数は少ない。三河湾の島では初めての記録であると思われる。

・コウチュウ目 COLEOPTERA

オサムシ科 Carabidae

- 1) クロモンヒラタゴミムシ *Haxagonia insignis* (Bates) 1ex. 梶島では初めての記録であると思われる。

コガネムシ科 Scarabaeidae

- 1) ウスチャコガネ *Phyllopertha diversa* Waterhouse 2exs. 三河湾の島では初めての記録であると思われる。
- 2) コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* (Faldernann) 2exs. 梶島では初めての記録であると思われる。

コメツキムシ科 Elateridae

- 1) ホソサビキコリ *Agrypnus fuliginosus*
(Candèze) lex. 梶島では初めての記録であると思われる。
- 2) ヒゲナガコメツキ *Neotrichophorus junior junior*
(Candèze) lex. 梶島では初めての記録であると思われる。

カミキリムシ科 Cerambycidae

- 1) ヒトオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis unifasciatus* Blessig lex. 三河湾の島では初めての記録であると思われる。

上記の他は、既に記録のある種であり、カメムシ科については種名を下記に列記しておくことにする。

- ・オオホシカメムシ *Physopelta gutta* (Burmeister) lex.
- ・ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus* (Thunberg) lex.
- ・ツマキヘリカメムシ *Hygia (Hygia) opaca* (Uher) lex.
- ・マルカメムシ *Megacopta cribraria* (Fabricius) lex.
- ・チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* Scott lex.

参考文献

- 1) 山崎隆弘・浅岡孝知(1990) 三河湾・島の昆虫。自刊。

岡崎市鳥川町での調査報告 (カメムシ類)

浅岡孝知



図1. 鳥川の入り口に立つ案内板

三河昆虫研究会の調査活動で、早春の4月29日(日)に岡崎市(旧額田町)鳥川集落周辺に出かけてきた。鳥川は6月にはゲンジボタルが乱舞するところとして有名である。鳥川ホテル保存会の人々が自生する自然環境の保全に努めている。展示施設が鳥川川沿いの鳥川小学校にあり、見学が自由である。近くには額堂山があったり、山歩きコースが設定されていたりする。労を取ってくださった山崎隆弘副会長や大平仁夫会長、伊藤昭博氏、判家卓司氏に感謝申し上げる。得られたカメムシ類についてのみ報告する。

- ・カメムシ目 HEMIPTERA
- サシガメ科 Reduviidae

- 1) アカヘリサシガメ *Rhynocoris ornatus* (Uhler) 2exs.
- 2) シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis* (Stal) lex. 幼体
ヒラタカメムシ科 Aradidae
- 3) ノコギリヒラタカメムシ *Aradus orientalis* Bergroth lex.
ナガカメムシ科 Lygaeidae
- 4) ホソコバネナガカメムシ *Macropes obnubilus* (Distant) 2exs.
オオオシカメムシ科 Largidae
- 5) ヒメホシカメムシ *Physopelta parviceps* Blore lex.
カメムシ科 Pentatomidae
- 6) シロヘリカメムシ *Aenalia lewisi* (Scott) lex.
- 7) クサギカメムシ *Halyomorpha picus* (Fabricius) lex.

コウチュウ類では、早春に良く見いだされるオオセンチコガネ *Geotrupes auratus* が複数見だされている。本種は近年シカが里地に降りてくるようになったことで、その個体数が増加している。

岡崎市産蝶類の興味深い種の記録 (1)

杉坂美典

はじめに

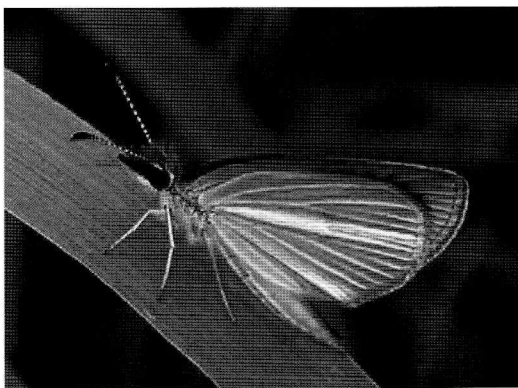
2008年8月、数年後に岡崎市版のレッドデータブックを発行することを目的に、岡崎市自然環境調査検討委員会議が発足し、大平仁夫先生を筆頭に、植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類・両生類、貝類、昆虫類、クモ類関係の10名の委員が召集された。私は、大平先生と共に昆虫類を担当することになり、特に蝶類の調査員として、岡崎市内に生息する蝶類の分布調査と過去の文献調査をすることになった。

現在、現地調査や文献調査がほぼ完了し、レッドデータブックの執筆に取りかかっている。そこで、ここにこれまでの調査結果の中間報告を発表し、関係諸氏からの加筆すべき情報の提供やご指導・ご意見を賜りたいと思う。

なお、下記に記した種は、岡崎市版のレッドデータブックに掲載される種だけでなく、私が関心を寄せている種も含めている。

種の記録と解説

(1) ギンイチモンジセセリ



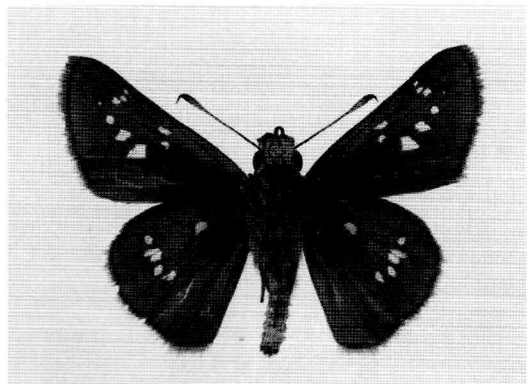
<記録>

- ・岡崎市上青野町, 1979.7.27, 1♀, 太田達之
- ・岡崎市上青野町, 1980.7.8, 3♂1♀, 太田達之
- ・岡崎市上青野町, 1991.7.23, 3♂♂, 杉坂和俊
- ・岡崎市天白町, 1999.9.5, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市上青野町, 2010.7.10, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市上青野町, 2011.5.14, 1♂1♀, 杉坂美典

愛知県では、安城市、岡崎市、豊田市、豊川市、北設楽郡豊根村、設楽町、新城市、豊橋市に記録があったが、岡崎市以外では、2000年以降の記録がない。

岡崎市では、矢作川の東側堤防の天白町、上青野町に分布していた。2011年5月14日に上青野町で写真撮影された記録(1♂1♀)が最後のものとなり、それ以降は見つかっていない。

(2) ミヤマチャバネセセリ



<記録>

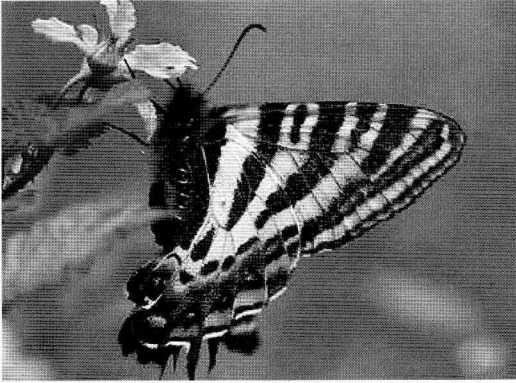
- ・岡崎市戸崎町, 1979.5.6, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市山綱町, 1979.9.5, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市石原町, 1981.5.5, 2♂♂, 杉坂美典
- ・岡崎市石原町, 1983.7.28, 3♂♂, 杉坂美典

愛知県では、丘陵地から山地にかけて広く分布していたが、その産地は局所的であった。

市内では、1979年5月に戸崎町にある溜め池の堤防で確認されたのが最初の記録となった。その後、数回、溜め池周辺を調べたが、再発見ができなかった。同年8月下旬には、桑谷山へ続く林道沿いの草地にいるのではないかと数回調査したところ、9月になり2頭目の記録が出た。しかし、その後は見つからず、戸崎町でも確認はできなかった。旧岡崎市では、これ以降の記録は出ていない。しかし、1980年代では、本宮山の西麓にある石原(現、石原町)では、男川の堤防付近にある雑木林の周辺の草地には少なくなく、1ヶ所で数

頭が飛びまわっている光景も時々見られた。しかし、本宮山の西麓でも、この十数年間は記録が出ていない。

(3) ギフチョウ



<記録>

- ・岡崎市明大寺町, 1964.4.10, 3♂♂, 太田達之
- ・岡崎市明大寺町, 1966.4.13, 2♂♂, 太田達之
- ・岡崎市石原町, 1968.4.14, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市生平町, 1977.4.10, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市保母町, 1977.4.10, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市大幡町, 1981.4.12, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市藤川町, 1982.4.18, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市蔵次町, 1993.4.18, 3♂♂2♀♀, 杉坂美典
- ・岡崎市須測町, 2006.4.23, 1♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市池金町, 2006.4.30, 1♀, 深田昭彦
- ・岡崎市中伊町, 2010.4.3, 1♂, 金田吉高
- ・岡崎市岩中町, 2010.4.3, 1♂, 金田吉高
- ・岡崎市池金町, 2010.4.24, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市池金町, 2011.3.27, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市池金町, 2012.4.28, 1♀, 杉坂美典

岡崎市では、1960年代には、明大寺町の丘陵地にも生息していたが、宅地化によって1968年には姿を消した。1970年代から1980年代では、保母町、池金町では多産し、須測町、茅原沢町、生平町、藤川町、大幡町にも生息していた。1990年代には、蔵次町でも発生地が見つかった。しかし、2000年頃から保母町、池金町、蔵次町では、乱獲や里山に人手が入らないことによる環境の変化によって激減するようになり、須測町では発生地の表土が流出したため姿を消した。その他の発生地からも、宅地化などによって環境が変化し姿を消した。そこで、池金町の北山湿地では、本種の保護活動が盛んになった。2010年、岡崎市に生息する本種は、岡崎市自然環境保全条例に基づく「指定希少野生動植物種」の指定を受け、全面的に採

集禁止となった。現在では、保母町、池金町では順調に回復し、安定した数の個体が発生している。

(4) ウスバシロチョウ



<記録>

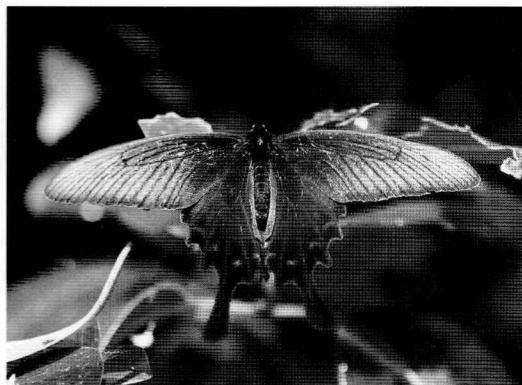
- ・岡崎市石原町, 1994.5.3, 3♂♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市大代町, 2005.5.3, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市中金町, 2005.5.3, 4♂♂, 杉坂美典
- ・岡崎市千万町, 2009.5.10, 1♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市片寄町, 2009.5.10, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市宮崎町, 2011.5.4, 2♂♂, 杉坂美典
- ・岡崎市東河原町, 2011.5.4, 6♂♂2♀♀, 杉坂美典

岡崎市では、市の東部に位置する東河原町、大代町、中金町、石原町、宮崎町、片寄町、千万町に分布し、愛知県の分布の南限に当たる。発生地ではかなりの数の個体数を見ることができているが、茶畑周辺に生えるムラサキケマンを食草としているため、人からの影響を受けやすい。また、弱々しく飛ぶ習性があり、容易に採集できるため乱獲される危険性も高い。以前は数十頭が毎年発生していた茶畑が、何らかの理由で放置され、荒地化した結果、本種が姿を消した場所もある。

(5) ジャコウアゲハ

<記録>

- ・岡崎市真福寺町, 1982.4.26, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 1996.8.28, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名本町, 1998.5.3, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2001.9.8, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名西町, 2002.6.15, 1♂3♀♀, 杉坂美典
- ・岡崎市昭和町, 2004.8.28, 1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市保母町, 2006.4.30, 1♂, 深田昭彦
- ・岡崎市日名南町, 2008.7.8, 5♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2009.5.3, 3♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2011.4.28, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市八帖北町, 2012.4.23, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市日名南町, 2012.7.7, 5♂♂, 杉坂美典



岡崎市では、1980年代から1990年代にかけては、市内の各所で、時々見られる程度の種であった。しかし、2000年以降では、矢作川の堤防付近の雑木林が拡大し、そこに生育するウマノズクサを食草として、大発生するようになった。

(6) ミヤマカラスアゲハ



<記録>

- ・岡崎市石原町, 1967.7.27. 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市桑谷町, 2002.9.25. 1♂, 柵木宗孝
- ・岡崎市池金町, 2012.5.5. 1♂, 杉坂美典

額田町と合併する前の岡崎市では、山間部での目撃情報があったが、正式には、1例も確認はできない状態であった。旧額田町でも、標高の最も高い本宮山周辺に分布していたが、非常に稀であった。しかし、2002年9月、岡崎市の南部に位置する桑谷町で1♂が採集され、2012年5月には、かなり市街地に近い池金町で新鮮な個体を写真撮影することができた。近似種のカラスアゲハが市街地の公園などから姿を消している状況の中で、本種の記録が比較的低い丘陵地で出たことは非常に興味深い。

(7) ツマグロキチョウ



<記録>

- ・岡崎市茅原沢町, 1979.4.23. 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市上青野町, 1979.7.8. 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市中園町, 1980.6.26. 1♀, 村田文彦
- ・岡崎市中園町, 1980.10.4. 5♂♂2♀♀, 村田文彦
- ・岡崎市奥山田町, 1982.9.15. 1♂, 杉坂美典

愛知県では、1980年代から徐々に減少し、名古屋市守山区を除いて過去に記録のあったほとんどの場所から姿を消した。原因は、食草のカワラケツメイが激減したことによる。しかし、名古屋市守山区では、宅地造成に伴ってアレチケツメイが大繁殖し、これに食草転換した本種が多数発生している。ところが、発生地が宅地造成地に限られているため、この状態は永くは続かないことは明らかである。

岡崎市では、1970年代から1982年までは、矢作川や男川・乙川などの堤防、村積山や桑谷山、本宮山などの林道沿い、その周辺の荒地に広く分布していた。しかし、1982年9月の記録が最後となり、この30年間は記録がない。

本種は全国的にも激減しており、環境省は、絶滅危惧種ⅠB類に指定している。

本種は、キタキチョウ（旧キチョウ）に似ているが、本種の方がやや小型で、前翅の外縁の黒帯が下端の部分には達しないが、キタキチョウでは、先端から下端までつながっている。しかし、本種の夏型は、翅形や斑紋がキタキチョウと似ているため、同定には注意が必要である。本種の方が翅形はやや丸味を帯びることや前翅外縁の黒帯の凹凸の形状を確認する必要がある。

矢作川水系におけるケスジドロムシの生息状況

市川 靖 浩

1. はじめに

ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* Nomura (図1) はヒメドロムシ科 Elmidae の水生甲虫である。ヒメドロムシの体長は1 mmから5 mm程度と非常に微小であるが本種の体長は4.8~5.8 mmであり(佐藤, 1985)、日本産ヒメドロムシの中では最大種である。また分類学的には日本固有の種である。生息環境は河川の上・中流域で比較的大きな河川の流木や抽水植物の根際から採集される。2007年の環境省レッドリストでは準絶滅危惧に選定されていたが2012年の見直しでは絶滅危惧Ⅱ類へランクアップし(環境省, 2012)、今後本種の生息域の減少が懸念される。本種が確認されている主な地域は、青森県(齊藤, 1999)、岩手県(岩手県, 2001)、秋田県(国土交通省, 2005)、福島県(福島県, 2003)、埼玉県(新井, 2007)、茨城県(高野・大桃, 2000)、神奈川県(守屋, 1997)、新潟県(新潟県, 2001)、石川県(渡部, 2010)、愛知県(吉富ほか, 1999)、京都府(京都府, 2002)、鳥取県(吉岡, 2008)、島根県(林, 2007; 吉岡, 2008)、広島県(秋山, 2005)、福岡県(緒方・中島, 2006)、大分県(大分県, 2011)など本州、四国、九州に分布する。生息地は局地的で河川改修や水質汚濁により絶滅が危惧されており、多くの地域でレッドリストに掲載されている。

矢作川水系におけるヒメドロムシ類(ドロムシ科ムナビロツヤドロムシを含む)の報告は、吉富らによりまとめられており(吉富ほか, 1999)、本水系のヒメドロムシ相を知るうえで大変参考になる。この報告においてケスジドロムシは、「以前は一級河川に比較的普通に生息する種であった」と故佐藤正孝博士の私信を紹介している。本水系で公表されている本種の採集地は、名倉川(稲武町)・月ヶ平(佐藤・成瀬, 1963)、西広瀬町(豊田市自然愛護協会, 1996)、小渡・坪崎(吉富ほか, 1999)の5箇所、いずれも現在の愛知県豊田市

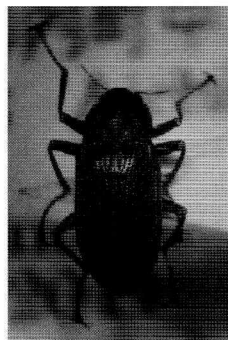


図1 ケスジドロムシ

域である。採集地点数が非常に少なく本水系においても他の地域と同様に本種が絶滅を危惧する種であるのか、単に採集事例が少なく情報が不足しているだけの種なのかは不明である。本水系の流域は愛知県・岐阜県・長野県の3県にあるが、いずれの県でも本種はレッドリストには掲載されていない。本水系における本種の生息域が他地域と同様に減少していく傾向にあるのか将来的に比較する資料として、本種の採集記録を蓄積すべきであると考え。今回は筆者が2011年3月から2012年10月までに本水系において調査してきたヒメドロムシ類のうち本種の採集記録について報告する。

2. 方法

矢作川水系の河川において抽水植物の根際や川底の石などを攪拌し、流下する個体を熱帯魚用網で掬い採りする方法で採集した。また水中に沈む流木から採集されることから川底の流木を拾い上げて表面にしがみついた個体を採集した。

3. 結果

今回の調査においてケスジドロムシは17地点で95個体が得られた。採集記録は採集地名・標高・採集日付・採集個体数の順番で表示し、並べ方は標高の高いものから並べた。採集者はすべて筆者であり標本も筆者が保管している。また今回の調

査において本種の終齢幼虫と思われる個体が多数の地点で採集されたが筆者には同定が困難なため本稿では報告しないが、この幼虫は99パーセントのエチルアルコールで液浸標本として筆者が保管している。

<データ>

ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* Nomura

- 愛知県北設楽郡設楽町西納庫廣見 (名倉川), 620 m, 30-VII-2011, 1頭.
- 愛知県豊田市御内町金蔵連 (金蔵連川), 600 m, 16-VII-2011, 21頭.
- 愛知県豊田市大野瀬町マルノ (野入川), 570 m, 2-VII-2011, 1頭.
- 愛知県豊田市御内町中島 (神越川), 450 m, 16-VII-2011, 20頭.
- 愛知県東大見町二ノ瀬 (大見川), 390 m, 14-VIII-2011, 2頭.
- 愛知県豊田市川面町中切 (足助川), 300 m, 3-VII-2011, 8頭.
- 岐阜県恵那市明智町阿妻 (阿妻川), 270 m, 26-VI-2011, 3頭.
- 愛知県豊田市浅谷町井ノ口 (阿妻川), 170 m, 5-VII-2012, 3頭.
- 愛知県豊田市深見町向イ洞 (飯野川), 120 m, 15-VII-2012, 11頭.
- 愛知県豊田市御作町勘ヶ入 (犬伏川 A), 100 m, 30-VII-2011, 2頭; 15-VII-2012, 11頭.
- 愛知県豊田市御作町勘ヶ入 (犬伏川 B: A の下流), 100 m, 7-VII-2011, 5頭.
- 愛知県豊田市田茂平町川端 (飯野川), 100 m, 25-VII-2012, 2頭.
- 愛知県豊田市上川口町中田 (矢作川), 80 m, 3-VII-2011, 1頭.
- 愛知県豊田市西広瀬町石飛 (飯野川), 70 m, 30-VII-2012, 1頭.
- 愛知県西広瀬町西前 (飯野川), 60 m, 23-VII-2011, 1頭.
- 愛知県豊田市落合町 (矢作川・麓川合流点付近), 30 m, 13-VII-2011, 1頭.
- 愛知県岡崎市細川町天王 (巴川・矢作川合流点付近), 20 m, 13-VII-2011, 1頭.

4. 生息環境

ケスジドロムシの矢作川水系における生息環境は、佐藤・成瀬 (1963) によれば上流域の下部から中流域にかけての抽水植物の根や流木に付着していることが多いと報告している。この佐藤・成瀬の報告は発表から半世紀を経過しようとするが当時の本水系における水生昆虫の生息状況を知るうえで大変貴重な資料である。今回の筆者の調査においても本種は上流域から中流域まで採集することができた。多くの場合は抽水植物の根際よりも流木にしがみつく個体を得る機会が多かった。流木の樹種は詳しく確認したわけではないが感覚的には特定の樹種に付着していたという印象はない。河川の状況としては矢作川本流やそこへ流れ込む支流といった比較的大きな河川のほか、上流域の溪流においても採集でき、いずれも開放的な環境であった。

吉富ほか (1999) は本水系のヒメドロムシの生息環境を流域区分と環境要素で分けし区分表を作成した。今回の調査で得られたヒメドロムシは吉富らの区分表とほぼ同様の環境から採集された。各採集地点でケスジドロムシと同所的に得られた他のヒメドロムシの状況を表1に示した。採取地点1~6は上流域、7~16は中流域、17は中流域の最末端か下流域と考えていいと思われるがここでは中流とした。上流域で本種と同所的に採集されたヒメドロムシはアシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura、ゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi* Nomura、クロサワドロムシ *Neorhohelmis kurosawai* Nomura、ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura、ナガアシドロムシ属の一種 (ツヤナガアシドロムシと思われる) *Grouvellinus* sp.、マルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* (Nomura)、ツヤドロムシ属の一種 (ミゾツヤドロムシと思われる) *Zaitzevia* sp. であった。また中流域で同所的に採集されたヒメドロムシはヒメハバビドロムシ *Dryopomorphus nakanei* Nomura、アシナガミゾドロムシ、ミヤモトアシナガミゾドロムシ *Stenelmis miyamotoi* Nomura et Nakane、アヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura)、

表1. ケスジドロマシの採集状況と同所で採集した他のヒメドロマシ

| 採集地点 | メッシュコード* | 標高 (m) | 環境 | 各採集地点の採集合計 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|-----------|--------|-----|------------|-----------|------------|----------------|-----------|------------|----------|----------|-----------|------------|----------|---------|--|---|----|-----|----|
| | | | | ケスジドロマシ | ヒメハバビドロムシ | アシナガミゾドロムシ | ミヤモトアシナガミゾドロムシ | ゴトウミゾドロムシ | アヤスジミゾドロムシ | クロサワドロムシ | ツヤヒメドロムシ | ナガアシドロムシ属 | マルヒメツヤドロムシ | ヒメツヤドロムシ | ツヤドロムシ属 | | | | | |
| 1 愛知県北設楽郡設楽町西納庫原見 (名倉川) | 5237-6402 | 620 | 小河川 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 2 愛知県豊田市御内町金蔵連 (金蔵連川) | 5237-5332 | 600 | 溪流 | 21 | | | | | | | | 2 | 4 | | | | | 1 | 28 | |
| 3 愛知県豊田市大野瀬町マルノ (野入川) | 5237-6483 | 570 | 小河川 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | 5 | 7 | |
| 4 愛知県豊田市御内町中島 (神越川) | 5237-5239 | 450 | 溪流 | 20 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 22 | |
| 5 豊田市東大見町二ノ瀬 (大見川) | 5237-5228 | 390 | 溪流 | 2 | | | | 5 | | | | 9 | 4 | 1 | | | | 3 | 24 | |
| 6 愛知県豊田市市面町中切 (足助川) | 5237-5279 | 300 | 溪流 | 8 | | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 11 | |
| 7 岐阜県恵那市明智町阿妻 (阿妻川) | 5237-7227 | 270 | 小河川 | 3 | | | | | | | | 2 | 4 | | | | | 18 | 27 | |
| 8 愛知県豊田市浅谷町井ノ口 (阿妻川) | 5237-6289 | 170 | 小河川 | 3 | 1 | 1 | 8 | | | | | 2 | 7 | | | | | 7 | 29 | |
| 9 愛知県豊田市深見町向イ洞 (飯野川) | 5237-6126 | 120 | 小河川 | 11 | | 1 | 28 | | | | | | | | | | | 2 | 42 | |
| 10 愛知県豊田市御作町勘ヶ入 (大伏川・A) | 5237-6129 | 100 | 小河川 | 13 | | | 54 | | 4 | | | | | 5 | | | 2 | 25 | 103 | |
| 11 愛知県豊田市御作町勘ヶ入 (大伏川・B (Aの下流)) | 5237-6119 | 100 | 小河川 | 5 | | 1 | 28 | | 7 | | | | | | | | | 1 | 42 | |
| 12 愛知県豊田市田茂平町川端 (飯野川) | 5237-6117 | 100 | 小河川 | 2 | | | 17 | | | | | | 1 | | | | 4 | 8 | 32 | |
| 13 愛知県豊田市上川口町中田 (矢作川) | 5237-6231 | 80 | 河川 | 1 | | 2 | 5 | | | | | | | | | | | | 8 | |
| 14 愛知県豊田市西広瀬町石飛 (飯野川) | 5237-5187 | 70 | 小河川 | 1 | | 1 | 13 | | 9 | | | | | | | | | | 24 | |
| 15 豊田市西広瀬町西前 (飯野川・矢作川合流点付近) | 5237-5187 | 60 | 小河川 | 1 | | | 90 | | | | | | | | | | | | 5 | 96 |
| 16 愛知県豊田市落合町 (矢作川・笠川合流点付近) | 5237-5123 | 30 | 河川 | 1 | | | 3 | 54 | | | | | | | | | | | | 58 |
| 17 愛知県岡崎市細川町天王 (巴川・矢作川合流点付近) | 5237-4144 | 20 | 河川 | 1 | | | 20 | 70 | | 7 | | | | | | | | | 1 | 99 |
| 種別採集合計 | | | | 95 | 1 | 30 | 367 | | 27 | 1 | 16 | 27 | | | | | 6 | 77 | 653 | |

ツヤヒメドロムシ、ナガアシドロムシ属の一種 (ツヤナガアシドロムシと思われる)、ヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria brevis* (Nomura)、ツヤドロムシ属の一種 (ミゾツヤドロムシと思われる) であった。吉富らの区分表と若干相違する部分としてはアヤスジミゾドロムシが中流の流木から得られたため区分表への追加が必要かもしれない。また吉富らの区分表では中流・下流に区分されるアシナガミゾドロムシが上流の流木からも得られた。林 (2012) はアシナガミゾドロムシとミヤモトアシナガミゾドロムシは分子系統解析の結果から同種であるとして、長翅の出現率が比較的高い二型種 (多型種) と指摘している。この説を用いるならば二型種のうち長翅のものが中流域から上流へと生息域を拡大した個体群が本水系の上流域にもともいたのか、あるいは生息域を拡大するために飛翔してきた個体ではないかと思考する。さらに区分表で細流の流木に区分されるヒメハバビドロムシが矢作川とその支流である阿妻川の合流点に近い場所の流木から1頭得られたが、市川 (2012) は阿妻川流域の山間部 (豊田市大ケ蔵連町) の細流でヒメハバビドロムシを採集しているの

で上流部の細流に分布する本種が流下してきたものと考えられる。

さてケスジドロマシは矢作川水系の上・中流域にその生息域をもつことは間違いないと考えられるが、今回の調査結果からは標高 450 m ~ 600 m の比較的標高の高い溪流の流木から多くの個体が得られた。標高 100 m 前後の中流域では個体数が減少する。さらに中流域の末端に近づくにつれて採集が難しくなる代わりにミヤモトアシナガミゾドロムシの採集個体数が飛躍的に多くなる傾向があった。

5. まとめ

冒頭に述べたようにケスジドロマシは各地のレッドリストに掲載され、環境省 (2012) の見直しではカテゴリーがランクアップしてしまったように、河川改修や水質汚濁などの環境変化によって生息が危ぶまれている地域が多い。吉富ら (1999) は矢作川水系においては上・中流域を生息環境とする種については人為的影響をあまり受けずに生息環境の悪化はあまり心配ないとしながらも、本種などの体の大きい種は生息数の減少には注意す

る必要があると指摘した。今回の調査で本種は上・中流域において確認でき、個体数の多さからいえば上流域の溪流に一番多く、下流になるにしたがって個体数が減少していく傾向がみられた。下流域で少なくなったのは主に流木に依存する本種であるので流木供給量に起因するものかもしれないし、下流域の流木に多く見出されたミヤモトアシナガミゾドロムシなどの棲み分けによるものかもしれない。また今回は採集地点の水質についてデータをとっていないため確実なことは言えないが、下流域になるにしたがって水質の悪化に伴う減少があるのかもしれない。多くの水生生物が減少し絶滅が危惧されている種も少なからずいる中で、欠作川水系におけるケスジドロムシの実態がどうなっているのか詳細は把握できていない。今後の課題としては本水系における本種の記録が非常に少ないため、さらに採集記録を蓄積していくことで詳しい分布域を把握する必要がある。併せて生息環境の水質状態についても記録していく必要がある。本種の生息については今後とも注意を払うべきであると考えている。

6. 参考文献・引用文献

- 秋山美文, 2005. 広島県のヒメドロムシ科. 比和科学博物館研究報告, (44): 205-219.
- 新井浩二, 2007. 埼玉県のヒメドロムシ類. 寄せ蛾記 (125): 1 - 21
- 福島県, 2003. レッドデータブックふくしまⅠ. (2012年11月4日参照) <http://www.pref.fukushima.jp/shizen/RedDataBook/top.htm>
- 林成多, 2007. 鳥根県産水生甲虫類の分布と生態. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 77 - 113.
- 一, 2012. 本土産ヒメドロムシ科の後翅多型. 第3回日本甲虫学会大会講演要旨集, p 36
- 市川靖浩, 2012. 矢作川水系におけるハバビドロムシとヒメハバビドロムシの分布. 三河生物, (4): 69 - 74.
- 岩手県, 2001. いわてレッドデータブック. (2012年11月28日参照) <http://ftp.www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=3239&ik=1&pnp=50&pnp=3232&pnp=3239>
- 環境省, 2012. 【昆虫】環境省第4次レッドリスト. (2012年11月4日参照) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>
- 国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所, 2005. 平成14年度河川水辺の国勢調査について. 2005年2月13日公表 (2012年11月4日参照) http://www.thrmlit.go.jp/noshiro/k_hap/k_hap_index.htm
- 京都府, 2002. (京都府自然環境日録(鞘翅(コウチュウ)日). (2012年11月4日参照) http://www.pref.kyoto.jp/kankyo_red/1214198141184.html
- 守屋博文, 1997. 神奈川県のヒメドロムシ科. 神奈川虫報, (117): 1 - 7.
- 新潟県, 2001. レッドデータブックにいがた. (2012年11月4日参照) <http://www.pref.niigata.lg.jp/kankyokikaku/1214240790991.html>
- 大分県, 2011. レッドデータブックおおいた2011. (2012年11月4日参照) <http://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/09/kc077.html>
- 緒方健・中島淳, 2006. 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 227-243.
- 佐藤正孝, 1985. ヒメドロムシ科. 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ), 433-440. 保育社, 大阪.
- 佐藤正孝・成瀬善一郎, 1963. 矢作川流域の水生甲虫類. 矢作川の自然: 163-172.
- 高野勉・大桃定洋, 2000. 茨城県産甲虫リスト. るりぼし, (23): 1 - 156.
- 豊田市自然愛護協会, 1996. (仮) 豊田市広瀬台住宅開発事業 自然環境調査報告書.
- 斎藤勝雄, 1999. ケスジドロムシの採集記録. インセクトマップオブ宮城, (10): 39.
- 渡部晃平, 2010. 石川県におけるケスジドロムシの初確認. 甲虫ニュース, (171): 4
- 吉岡誠人, 2008. 伯太川水系および日野川水系のヒメドロムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 223 - 237
- 吉富博之・白金晶子・疋田直之, 1999. 矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究, (3): 95 - 116

2011年に豊田市で採集したコメツキムシ若干種の記録

大平仁夫・高井 泰

このたび筆者の一人である高井が2011年に豊田市で採集したコメツキムシを大平が同定をしたので、ここに共著として報告することにした。ここに記録した種は17種で大部分のものは普通種であるが、豊田市自然環境調査資料として役立てば幸いである。調査範囲は豊田市自然環境基礎調査メッシュ番号(5237)内で、採集地はそのメッシュ番号(M.・・)として採集データに付記した。また、採集年はすべて2011年で採集者は高井本人であるので、本文中ではそれらは省略して扱った。この報告が豊田地域のコメツキムシ類の分布相の充実に少しでも役立てば幸いである。

種の記録

1. *Cryptalaus larvatus pini* (Lewis, 1894)
フタモンウバタマコメツキ
標本：1♀，豊松町足助道，30-VI, (M. 42-60)
暖地系の種で、足助からは岡田(1997)が記録している。
2. *Cryptoalaus berus* (Candèze, 1865)
ウバタマコメツキ
標本：1♀，羽布町，10-V, (M. 43-23)
各地の松林に見出される種である。しかし、羽布町からはこれが最初の記録と思われる。
3. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861) サビキコリ
標本：1♀，面ノ木峠，10-VII, (M. 64-26)
各地の雑木林に広く分布する種である。
4. *Hemicrepidius (Miwacrepidius) subcyanus* (Motschulsky, 1866) ルリツヤハダコメツキ
標本：1♀，面ノ木峠，17-VII, (M. 64-26)
寒冷地系で、最近ではあまり見出されていない。面ノ木峠の近くでは、黒田ダムから穂積(1968)が記録している。
5. *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus secessus* (Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ
標本：6♂♂，面ノ木峠，17-VII, (M. 64-26)

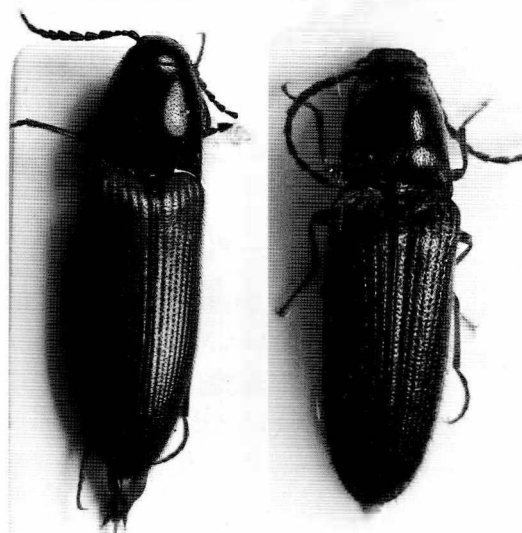


図1. A. マサタカアカコメツキ, ♂ (体長10.5mm)
B. キアシヒメカネコメツキ, ♀ (体長7mm)

- 各地の雑木林に広く分布する種である。
6. *Hemicrepidius (Heterathous) desertor* (Candèze, 1873) ヒメクロツヤハダコメツキ
標本：1♂，面ノ木峠，17-VII, (M. 64-26)
愛知県では主として奥三河の山岳地帯に分布。分布の南限は新城市あたりである。面ノ木峠からは岸井(2006)による記録がある。
 7. *Hemicrepidius (Medakathous) jactatus jactatus* (Lewis, 1894) メダカツヤハダコメツキ
標本：1♂，豊松町足助道，14-VIII, (M. 64-26)；
3♂♂，面ノ木峠，14-VIII, (M. 64-26)。
雑木山林に分布しているが、個体数は少ない。
 8. *Limonius approximans* (Lewis, 1894)
キアシヒメカネコメツキ (図1, b)
標本：1♀，面ノ木峠，10-VII, (M. 64-26)。
山地の広葉樹林に分布する種であるが、個体数は少ない。面ノ木峠からは大平(1987)が最初に記録している。
 9. *Denticollis miniatus* (Candèze, 1885)
ミヤマベニコメツキ

- 標本：1♂，羽布町，8-V, (M. 43-32)
愛知県では主として三河地方の山岳帯に分布している。羽布町からは最初の記録と思われる。
10. *Ampedus (Ampedus) masatakai* Ôhira, 2007
マサタカアカコメツキ (図 1, a)
標本：羽布町，2♂♂ 3♀♀，10-IV, (M. 43-32)
本種は愛知県原産の種である。体長は 10mm 内外，黒色で光沢を有し，上翅は赤褐色で，会合線部はやや暗色を呈する。また，体背面の毛は黒色である。前胸背板の点刻は小形で一様に分布，表皮面は平滑である。原記載では岡崎市，豊川市音羽町，新城市から記録しているが，大平 (2008) は豊田市伊勢神峠，大平 (2009) は豊根村古真立，大平 (2012) は岡崎市榎山町から記録している。このような分布から，本種は里山周辺の雑木林に広く分布しており，朽木中で秋に成虫になった個体は，そこで冬を越し，春に外部に現れるようである。羽布町からはこれが最初の記録である。
11. *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873) アカハラクロコメツキ
標本：3♂♂ 2♀♀，羽布町，10-V, (M.43-23); 1♂，成瀬，5-VI, (M. 42-68); 1♀，面ノ木峠，10-VII, (M. 64-26).
成虫は里山の松のあるところに分布している普通種である。
12. *Vuilletus viridis subopacus* Nakane, 1959
コミドリヒメコメツキ
標本：1♂ 1♀，羽布町 (M. 43-24, 43-33)
里山や山地の広葉雑木林に分布する普通種であったが，山林の荒廃と植林化で個体数は少なくなり，今では見出されなくなっている場所が多い。
13. *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873)
キバネホソコメツキ
標本：3♂♂ 1♀，羽布町，4-V, (M. 43-32); 1♂，松平町高月院，8-V, (M. 42-51).
各地の雑木林に広く分布する種で，花上で小集団で見出されることが多い。
14. *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878)
カバイロコメツキ
標本：3♂♂ 1♀，羽布町，4-V, (M. 43-32)
山地の農耕地や牧草地の周辺に多い種である。
15. *Parasilesis musculus musculus* (Candèze, 1873)
クチブトコメツキ
標本：1♂ 1♀，面ノ木峠，14-VIII, (M. 64-26)
面ノ木峠では普通に見られる種である。
16. *Melanotus (Melanotus) correctus correctus* (Candèze, 1865) ヒラタクロクシコメツキ
標本：1♂，面ノ木峠，17-VII, (M. 64-26)
山林性で雑木林に広く分布する種である。
17. *Melanotus (Spheniscosomus) cete cete* Candèze, 1860 アカアシオクシコメツキ
標本：1♀，豊松町足助道，17-VI, (M. 42-60)
低地から山地の雑木林に広く分布する種である。

引用文献

- 岡田正哉 (1997) 愛知県内で得たフタモンウバタマコメツキ. 虫譜, 35(2): 22.
- 穂積俊文 (1968) 東海甲虫誌 (15). 佳香蝶, 20(74): 35-47.
- 岸井 尚 (2006) 細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ. 地域甲虫自然史, 2号 :1-89. (日本甲虫学会)
- 大平仁夫 (1984) 原田猪津夫氏採集のコメツキムシ (II). 佳香蝶, 36(138): 17-18.
- 大平仁夫 (1985) 山崎隆弘氏採集の三河地方のコメツキムシ. 三河の昆虫, (32): 170-178.
- 大平仁夫 (1987) 愛知・岐阜県のコメツキムシ若干種. 三河の昆虫, (34): 226-227.
- 大平仁夫 (1992) 穂積俊文先生採集のコメツキムシ標本. 三河の昆虫, (39): 343-348.
- Ôhira, H. (2007) New or Little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan.. L. Elytra, Tokyo, 5(1): 108-110
- 大平仁夫 (2008) 戸田尚希氏採集の愛知県のコメツキムシ若干種. 佳香蝶, 60(235): 233-234
- 大平仁夫 (2009) 愛知県豊根村のコメツキムシ若干種の記録. 三河の昆虫, (56): 687-688.

旧豊田市で記録が少ない種類についての報告(その5)

吉 鶴 靖 則

豊田市自然観察の森と矢並湿地は基本的に採集禁止であり、また矢並湿地は立ち入り制限されていることから、データが乏しくなりやすい地域である。筆者はこれらの地域の調査担当レンジャーだったため、データ集積を業務としていた。ここに豊田市自然環境基礎調査報告書で記録が少ない種などについて報告し、当地区の昆虫相の一資料とする。

なお、採集地はすべて愛知県豊田市であるため県名と市名を省略した。採集者、撮影者が吉鶴の場合は記述を省略し、その他は明記したが、いずれも自然観察の森の関係者によるものである。採集以外による確認行為はその旨を記した。

多くの記録写真や標本を提供していただいた豊田自然調査の会虫めがね会員の大脇雅久氏、協力していただいた現・旧自然観察の森スタッフに厚くお礼申し上げます。

トンボ目 ODONATA

サナエトンボ科 Gomphidae

アオサナエ

Nihonogomphus viridis Oguma

京ヶ峰二丁目,14-V-2012,1 ♀ (大脇雅久)

当地では初記録である。

カメムシ目 HEMIPTERA

ハネナガウンカ科 Derbidae

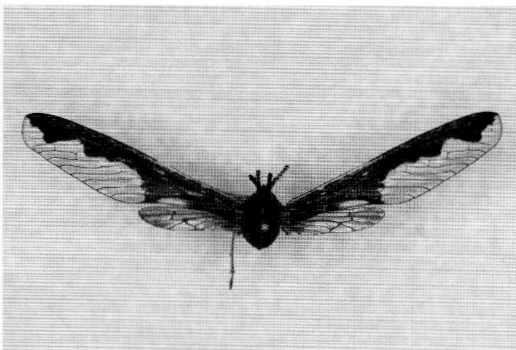


図1. クワヤマハネナガウンカ

クワヤマハネナガウンカ (図1)

Zoraida kuwayamae (Matsumura)

京ヶ峰三丁目,27-VI-2012,1ex.

本科の記録は県下では少ないが、当地では過去の記録(吉鶴ほか, 2010; 吉鶴ほか, 2012)と合わせ3属6種となった。

シリアカハネナガウンカ

Zoraida horishana Matsumura

京ヶ峰二丁目,9-VIII-2012,1ex. (死体回収: 山下美夏); 京ヶ峰三丁目,9-VIII-2012 (撮影)

2009年(吉鶴ほか, 2010)、2011年(吉鶴ほか, 2012)に続き確認した。

ラクダムシ目 RAPHIDIOPTERA

ラクダムシ科 Inocelliidae

ラクダムシ (図2)

Inocellia japonica Okamoto

市木町南山,1-VI-2012,1ex. (撮影)

当地では初記録である。

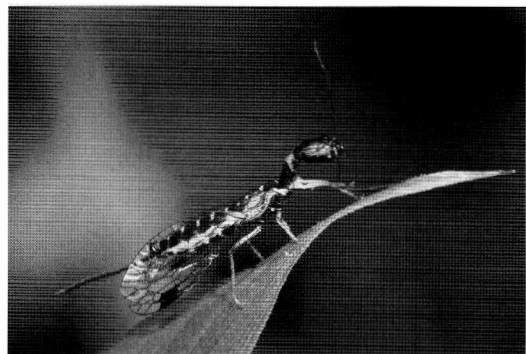


図2. ラクダムシ

コウチュウ目 COLEOPTERA

オサムシ科 Carabidae

ヒメキノコゴミムシ

Coptodera osakana (Nakane, Ohkura et S. Uéno)

市木町南山,23-V-2012,1ex. (撮影)

2010年(吉鶴ほか, 2012)以降、毎年観察できている。

キノコゴミムシ

Lioptera erotyloides Bates

市木町南山, 23-V-2012, 1ex. (撮影)

2009年(吉鶴ほか, 2010)以降、毎年観察できている。今回の本種と前種の記録は、夜間コナラの樹液の周囲にいたものである。

カミキリムシ科 *Cerambycidae*

ホシベニカミキリ (図3)

Eupromus ruber (Dalman)

市木町赤根, 8-VII-2012, 1ex.



図3. ホシベニカミキリ

ムネモンヤツボシカミキリ (図4)

Saperda tetrastigma Bates

古瀬間町窟谷, 30-V-2012, 1ex. (捕獲: 大脇雅久; 撮影)

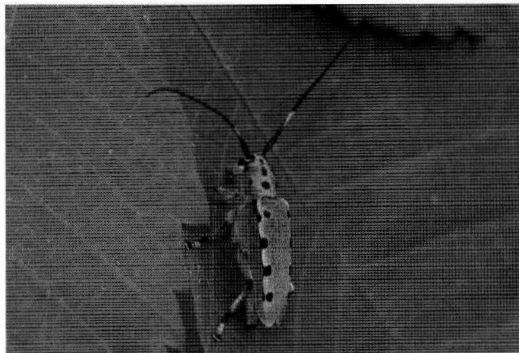


図4. ムネモンヤツボシカミキリ

ハムシ科 *Chrysomelidae*

イノコヅチカメノコハムシ

Cassida japana Baly

京ヶ峰四丁目, 1-VI-2012, 1 ♂ 1 ♀

従来ヒメカメノコハムシ *Cassida piperata* Hope と混同されていた種で、近年別種として認められるようになったため(南・滝沢, 2005; 今坂・三宅,

2008)、ここに記録しておく。

ゾウムシ科 *Chrculionidae*

アカコブコブゾウムシ (図5)

Kobuzo rectirostris (Roelofs)

市木町南山, 5-VIII-2010, 1ex. (川田奈穂子); 東山町四丁目, 15-IV-2011, 1ex. (中尾文香); 東山町四丁目, 12-VI-2011, 1ex. (井上智善)



図5. アカコブコブゾウムシ

チョウ目 LEPIDOPTERA

セセリチョウ科 *Hesperiidae*

アオバセセリ

Choaspes benjaminii japonica (Murray)

京ヶ峰二丁目, 11-IX-2012, 1ex. (目撃: 大熊千晶)

2009年(吉鶴ほか, 2010)でも記録されているが、偶産種と思われる。



図6. ツマグロキチョウ

シロチョウ科 *Pieridae*

ツマグロキチョウ (図6)

Eurema laeta betheseba (Janson)

京ヶ峰三丁目, 17-IV-2012, 1ex. (撮影: 大脇雅久)

近隣では矢並町百伏にアレチケツメイがあることから、そこが発生源と思われる。

シジミチョウ科 Lycaenidae

ウラナミアカシジミ

Japonica saepestriata (Hewitson)

京ヶ峰三丁目, 20-VI-2012, 1ex. (撮影: 大脇雅久):

矢並町百伏, 18-VII-2012, 1ex. (撮影)

近年大きく減少した種であるため、記録にとどめておく。

ウラミスジシジミ

Wagimo signatus (Butler)

東山町四丁目, 28-VII-2012, 1ex. (大脇雅久): 市木町南山, 1-VIII-2012 (撮影)

2010年(吉鶴ほか, 2012)に続いての記録である。

タテハチョウ科 Nymphalidae

オオウラギンスジヒョウモン

Argyronome ruslana (Motschulsky)

市木町南山, 30-IX-2012, 1♀ (撮影: 大脇雅久)

近年当地で記録がなかった種である。

ウラギンヒョウモン

Fabriciana adippe pallescens (Butler)

市木町南山, 6-X-2012, 1♀ (撮影: 小池彩)

近年当地で記録がなかった種である。

ホシミスジ

Neptis pryleri iwasei Fujioka

東山町四丁目, 6-VI-2012, 1ex. (撮影)

当地初記録である。

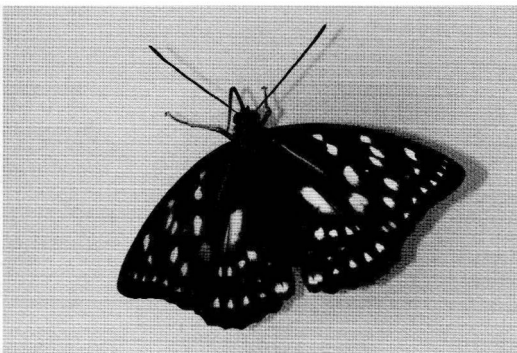


図7. オオムラサキ

オオムラサキ(図7)

Sasakia charonda (Hewitson)

東山町四丁目, 22-VI-2012, 1♂ (撮影: 大熊千晶)

近年当地で記録がなかった種である。

【過去の記録の訂正】

過去に発表した当地区のものに間違いがあったので、ここに訂正すると共に、お詫び申し上げる。訂正はいずれも地名で、用いた地図の小字境界が間違っていたことに起因するものである。

ヤホシゴミムシ(吉鶴, 2008)

【誤】東山町五丁目 【正】東山町四丁目
オグマサナエ、タカネトンボ、ナツアカネ(以上吉鶴ほか, 2010)

【誤】東山五丁目 【正】東山町四丁目
オオオバボタル(吉鶴ほか, 2010)

【誤】東山町五丁目 【正】東山町四丁目

引用文献

今坂正一・三宅 武(2008) 2007年に大分県で採集した興味深い甲虫. 二豊のむし, (46): 17-29.

南 雅之・滝沢春雄(2005) 東京都本土部のハムシ. 神奈川虫報, (149): 1-21.

吉鶴靖則(2007) 旧豊田市で記録が少ない種類についての報告. 三河の昆虫, (54): 652-653.

吉鶴靖則(2008) 旧豊田市で記録が少ない種類についての報告(2). 三河の昆虫, (55): 680-681.

吉鶴靖則・川田奈穂子・小出恭章(2010) 旧豊田市で記録が少ない種類についての報告(その3). 三河の昆虫, (57): 721-723.

吉鶴靖則・川田奈穂子・小出恭章(2012) 旧豊田市で記録が少ない種類についての報告(その4). 三河の昆虫, (59): 763-767.

豊田市で採集された興味ある甲虫

蟹江 昇

筆者は豊田市(旧旭町)伊熊の伊熊神社で甲虫類の調査を行った。神社境内周辺は小規模ながら自然林が残されており、モミ、イヌシデ、スギなどの大径木が茂る良好な環境となっている。調査方法はビーティングおよび、ライトトラップを中心としたもので、愛知県未記録種を含むいくらかの興味深い甲虫を採集することができたので報告する。以下の記録はいずれも神社境内で筆者が採集したものである。

1. ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキ

Hypoganus miyatakei Ohira (図1)

本種成虫は7月から9月に掛けて現れ、大径木の樹皮などに潜むことが知られている。県内の記録はわずかで鳳来町阿寺(大平1994)、設楽町段戸(大平1995,蟹江2010)の2か所が生息地として知られているにすぎなかった。神社境内のスギ大径木根際付近の樹皮下およびライトトラップで得られた。

2exs,19・Ⅷ-2012.

2. ルイスホソカタムシ

Gempylodes ornamentalis (Ritter) (図2)

稀なホソカタムシとして知られているが、近年ナラ枯れの被害の拡大に合わせ生息域を拡大する傾向がみられる。県内では春日井市(河路2010,2012)から記録され、その後名古屋市内からも採集されている(未発表)。本種はカシナガキタイによって加害衰弱した木に見られ、坑道内に潜り込みこれらの幼虫を捕食しているようだ。新しいシイ立ち枯れより採集した。

1ex,15・Ⅶ-2012.

3. オカダユミセスジホソカタムシ

Lasconotus okadai Aoki (図3)

関東から九州に分布し、愛知県では初めての記録となる。近年までヒメユミセスジホソカタムシ



図1

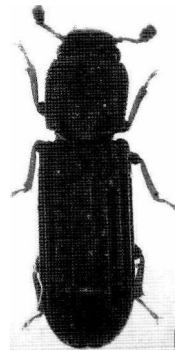


図3

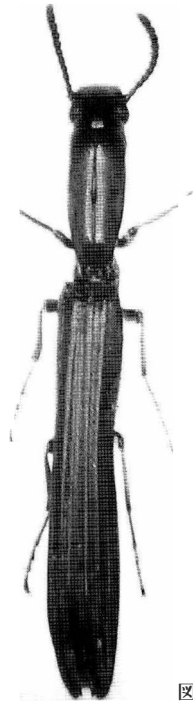


図2

(ヒメナガセスジ)と混同されてきたが、前胸縦隆起線が不明瞭、触角先端球棍が3節からなることで2011年に新種記載された。前種と同じシイ立ち枯れより得た。

26exs,15-Ⅶ-2012.12exs,15-Ⅷ-2012.

引用文献

河路掛吾(2010) ルイスホソカタムシを愛知県春日井市で採集. 月刊むし(476): 47.
河路掛吾(2012) ルイスホソカタムシの追加記録. 佳香蝶 64(250): 34.
大平仁夫(1994) 三河地方から採集されるコメツキムシについて(11). 佳香蝶 46(180): 41-42
大平仁夫(1995) ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキ段戸裏谷で採集. 三河の昆虫(42): 405
蟹江昇(2010) ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキの採集例. 三河の昆虫(57): 720.

鳥の死骸下からマメダルマコガネを採集

春 田 祥 博

筆者は、コブスジコガネ類の採集を目的として、干乾びた鳥の糞死骸を豊川市御津山中に仕掛けておいた。

その後、数回に渡ってこのトラップの確認を行った結果、目的としたコブスジコガネの仲間は見られなかったが、トラップ下の表面の土をトレイに移して調べてみると、マメダルマコガネ *Panelus parvulus* が得られた。

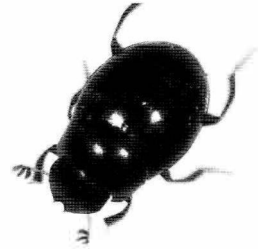
本種はもともと雑食性が強く、腐敗動物質にも集まるとのことであるが、その具体的な一例としてここに報告しておく。

標本：愛知県豊川市

御津町広石御津山

4 - VIII - 2010. lex.

6 - VIII - 2010. lex.



参考文献

川井信矢他. 2005. 日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群 :51.

2012年におけるヒゲコガネ属の採集記録について

鈴 木 栄 二

1. ヒゲコガネ

Polyphylla (Gynexophylla) laticollis laticollis は愛知県では豊川、矢作川、木曾川流域等から知られており、大きな河川と関わり合いの強い甲虫であると考えられる。三河地方では豊川市(旧一宮町)、豊橋市、岡崎市、西尾市から報告されている。



筆者は矢作川右岸、岡崎市東大友町で灯火に飛来した個体を採集したので記録する。なお、2011年には同川左岸の八帖南町でも7月に2♂♂を得ている。

採集記録

岡崎市東大友町 1♂ 03- VII -2012.

引用文献

愛知県(1990) 愛知県の昆虫(上) p.342-343.

大平仁夫(1985) 岡崎市の動物 昆虫類 岡崎市史・自然編 1028pp. (岡崎市)

川井信矢ほか(2007) 日本産コガネムシ上科図説 第2巻, 食糞群 I

2. シロスジコガネ

Polyphylla (Granida) albolineata は愛知県では東三河や知多半島の海岸が主な産地として知られている。



筆者は田原市で灯火に飛来したものを採集したので記録する。

採集記録

田原市六連町 2♂ 1♀ 30- VI -2012.

田原市小塩津町 1♀ 07- VII -2012.

田原市赤羽根町 1♀ 07- VII -2012.

引用文献

愛知県(1990) 愛知県の昆虫(上) 342-343.

川井信矢ほか(2007) 日本産コガネムシ上科図説 第2巻, 食糞群 I.

知多半島でのクロコムラサキの記録

大曾根 剛

愛知県のコムラサキ *Apatura metis* は渥美・知多半島部を除き広く分布しており、その form であるクロコムラサキもほぼ全域で出現するが、尾張平野部での記録は少なく、その出現率は名古屋市東部丘陵以東から三河地方へ向かって次第に高くなることが判明している (大曾根・中島, 2006)。

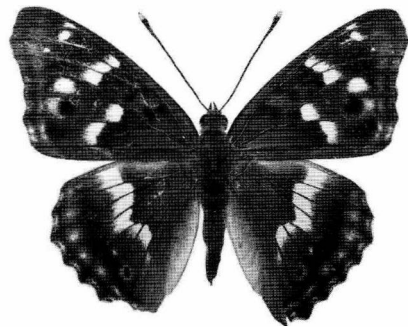
知多半島のコムラサキは、従来、記録そのものは報告されていたが (平松, 2001)、これは半島基部付近の内陸側の行政区画上のもので、地理的には半島部での生息はこれまでは確認されていなかった。ところが最近、本種の分布が半島部にも拡大傾向にあり、筆者は 2007 年に知多市佐布里池付近と半田市北部で成虫を確認した。そして、本年、クロコムラサキも確認したので報告する。

1♂, 知多市佐布里池脇, 2012年5月21日, 筆者採集 (写真)。

植栽のシダレヤナギの大木の周囲を飛翔する多くの個体を確認したが、その中で1頭のみクロコムラサキを確認して採集した。

その他、現在まで筆者が確認できた知多半島基部付近でのコムラサキの記録も付記する。

知多市佐布里奥茂長田, 2007年6月6日, 1♀, 筆者確認:
半田市北大矢知町1, 2007年6月6日, 1♀, 筆者確認:
大府市北崎町大根緑公園, 2009年9月13日, 1♂1♀,
筆者採集: 同地, 2010年2月19日, 1幼虫, 筆者採集:
東海市名和町膳棚新池, 2010年5月29日, 1♂, 筆者採集:
大府市横根町名高山増田池, 2010年5月31日, 1♀, 筆者確認:
東海市荒尾町南奥山, 2012年6月10日, 1♀, 筆者確認。



クロコムラサキ (知多市産) ♂

文献

- 1) 平松俊彦 (2001) 知多半島におけるネアカヨシヤンマとコムラサキの記録. 佳香蝶, 53 (208) : 64.
- 2) 大曾根剛・中島悦雄 (2006) 愛知県のコムラサキについて. 佳香蝶, 58 (228) : 57-66.

◇平成 23 (2011) 年度の総会◇

総会は平成 24 (2012) 年 3 月 4 日に開かれ、小淵沢から権田先生も出席、楽しい話題の多い総会でした。

出席者：前列右から山崎隆弘、松井直人、大場裕一、
権田 武、大平仁夫、鈴木栄二、
後列右から淺岡孝知、市川靖浩、白井和伸、
金田吉高、吉鶴靖則、久永和彦、戸田尚希、
伊藤昭博、蟹江 昇、杉坂美典、柵木宗孝、
早川 忍、半家卓司、山本英治、小鹿 亨。



タイワンタケクマバチを安城市で観察

小 鹿 亨

タイワンタケクマバチ *Xylocopa tranquebarorum* はコシブトハナバチ科に属する大形の外来ハナバチ類で、国内では豊田市ではじめてその侵入されたことが知られている。現在は、県内では広く記録されているようで、ブルーデータブックあいち2012にもその名前がある。

筆者は勤務する安城市立今池小学校の敷地内で、本種を観察しているので市内の目撃記録として報告する。

《データ》タイワンタケクマバチ愛知県安城市今池町
安城市立今池小学校地内

2012年8月4日1 ex. 目撃。

2012年8月18日1♂目撃。

2012年8月23日1♂目撃。

写真は、安城市で紫色の花をつけるシソ科サルビア属の一種 *Salvia farinacea* (園芸名: ファリナセア・ビクトリア・ブルー) に訪花したものである。学校ではこの植物を花壇用に栽培しており、この時期にはこの花が多く、タイワンタケクマバチをはじめ、多くの昆虫類の蜜源になっているようである。この写真を撮影した日の前後にも観察しており、2頭程度の複数で現れることもあった。なお、8月18日・23日に目撃の♂は、名城大学農学部昆虫学研究室の山岸博士によれば、今年羽化した若い♂とのことであった。

本種は胸部全体が黒く、胸部背面が黄色い外来種のキムネクマバチ(クマバチ) (*Xylocopa appendiculata circumvolans*) と容易に区別できるため、フィールドで観察していても、両種を見間違える可能性は少ないと感じた。



タイワンタケクマバチ 2012年8月18日安城市今池町

この時期、在来種キムネクマバチも同じ場所で観察できたが、一度に目撃する個体数は、どちらも1~2頭程度で大差はなかった。なお、観察した場所は名鉄新城駅の南側にあるマンション群に囲まれており、周辺はタケ類があまり多くない環境であると思われる。

最後になりましたが、タイワンタケクマバチについて、ご教示いただいた名城大学農学部昆虫学研究室山岸健三博士に感謝いたします。

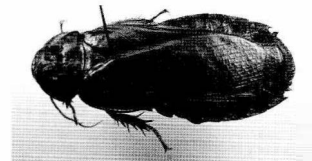
参考文献

川添和英 2012. ダニの遺伝子データから外来種タイワンタケクマバチの正体解明に挑む. 昆虫DNA研究会ニューズレター 17: 13-16.

間野隆裕 2012. タイワンタケクマバチ. ブルーデータブックあいち 2012: 111. 愛知県. 岡部貴美子 2010. 豊田市に定着したタイワンタケクマバチは悪者だろうか?. 矢作研月報.

Rio(143): 1-2. タイワンタケクマバチ 2012年8月18日安城市今池町.

◇カシノナガキクイの被害で、岡崎地方ではクスギヤコナラの古木が枯れ、その朽ち木でオオゴキブリが増えている。そこにまた樹液の出る若木が育ち、森林が若返り、クワガタやカナブンが集まる(大平)



新シリーズ・昆虫と私(15)

早 河 忍

1979年の夏に大学の研究室に就職浪人として残っていた私は、講座旅行で出掛けた御岳山の濁河で初めて本格的な昆虫採集を経験しました。

気持ちのよい夏空のもとで、ノリウツギやシウッドの花に集まる甲虫類を採集するのは非常に楽しい経験でした。この時に、捕虫網の他に叩網で甲虫を採集する方法やタトウを使った標本の作り方などの手ほどきを受けました。

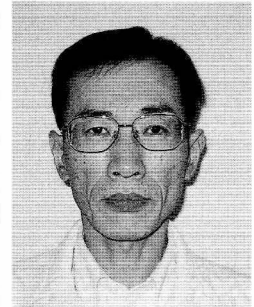
すっかり昆虫採集のとりこになった私は、翌年の3月には南西諸島へ採集に出かける友人に同行して、石垣島・西表島で2週間を過ごしました。手ほどきをしてくれた友人の影響で、主にカミキリムシを採集するようになりました。

就職してからも時間の許す限り採集に出かけていましたが、だんだんと仕事が忙しくなり、採集

の機会は随分と少なくなりました。

それでも昆虫とは付かず離れずで、1994年からは三河昆虫研究会にも入会させて頂き、現在に至っています。

私の昆虫との付き合いは研究というよりも趣味の色合いの濃いものですが、総会で皆さんの熱心な活動を伺うと刺激され、励みになります。これからもながく昆虫に触れていきたいと思っています。



新シリーズ・昆虫と私(16)

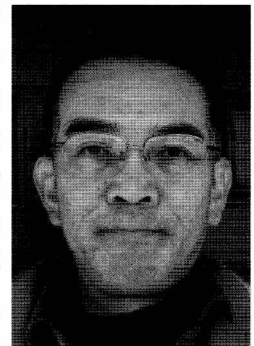
判 家 卓 司

杉坂先生や大平先生のお誘いを受け、この会に入会させていただきました。現在は県立高校で国語の教員をしております。自然観察をしながら、運よく出会えた生き物たちの記録、観察、写真撮影を週末行っていますので、フィールドで出会いましたら、これからもよろしくお願ひします。

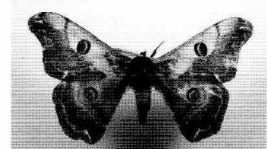
野鳥の撮影から始まった自然観察は、昆虫や植物へとその領域を広げ、蝶の同定を杉坂先生にお願いしようと連絡したのがこの研究会への入り口でした。

現在は岡崎市を中心に、生物全般を観察対象に広げています。実績は遅々として進みませんが、「岡崎の自然」という、ホームページも立ちあげています。

岡崎・幸田・三ヶ根山でのアサギマダラのマーキング調査も継続して参加しています。会員の皆様を始め、多くの方と知り合い、多くのことを教わりました。この年齢になっても「学ぶ楽しさ」をエネルギーに、フィールドを探索の週末です。

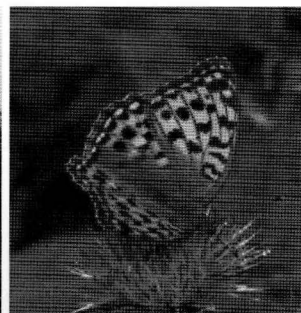


◆1962(昭37)年に今の住居に来てから、晩秋にヒメヤママユが灯火によく飛来していましたが、ここでは絶滅したと思っていたこの蛾は2012年に何十年ぶりの飛来がありました。(大平)
(27-X. 2012. 大平採集)



長野県平谷村長者峰・高嶺採集会

伊藤 昭博



2012年度は岡崎市鳥川町、三河高原牧場、亀淵川溪谷、棚山高原、長者峰・高嶺と5回が計画された。そのうち、棚山高原は諸々の事情で中止となったが、他は予定通り実施された。

ここでは、本年の採集会として最も期待された「長者峰・高嶺」の採集会についての様子である。7月15日(日)、豊川市のギョギョランドに8時30分に4人が集合。大平会長、山崎副会長、浅岡副会長と伊藤である。

いつものことながら、山崎氏には計画から案内、運転と恐縮しながら乗車した。10時を少々過ぎた頃には、長者峰の麓の登山道入り口に到着した。案内看板の近くでは、早速エゾハルゼミが出迎えてくれた。途上1,000m付近で採集を開始したところ。私の目の前にアサキマダラが来たので早速採集した。また前方にはヒョウモンチョウの仲間も舞っていた。

長者峰(1,573m)の頂上へは車なので20分で到着した。駐車場の石碑には天然のプラネタリア

ムと書かれ、ポストの中には星座印刷が投入されていた。夏の夜、寝袋の中から満天の星を眺めたらきっと素晴らしいことだろう。

駐車場の南には展望台があった。きょうは残念なことに、入梅中なのでガスがかかっている恵那山、大川入山、南アルプス等の展望はできなかった。展望台の下には北西方面へ延びる車道がある。この道を30分ほど行くと高嶺(1,599m)の頂上に到着するのだ。パラグライダーを楽しむために4~5人のひとがいた。この場所はその方面では有名である。本日はガスっていて、安全のために待機している様子であった。高嶺への車道はコヒョウモン、ミドリヒョウモン、テングチョウ、スジグロシロチョウ等が飛び交い、久しぶりにチョウの撮影を楽しむことができた。

集合時には急な雨がきた。そこで昼食は車中となった。「シモフリがとれ始めだから早いのかな」、「蝶は意外に多かった」、「山野草は期待外れだったなあ」などと虫談義がはずんだ。

下山途中の1,300m付近でも小採集を行い、さらに足を延ばして、茶臼山にも寄って採集をした。まあまあ成果であった。

本年の採集会に参加して思ったことは、蝶、甲虫、山野草など最適な時期を見つけることの難しさを心底痛感した。

